1　**教育目標**

「豊かな心」と「確かな学力」と「人とかかわる力」の育成を図る。

かがやきのある子
- ◎よく考え　よく学ぶ子
- ◎ねばり強い（がんばる）子
- ◎心のやさしい子
- ◎自らをきたえる子

校　　訓
- **強く**
- **明るく**
- **正しい子**

V　研究構想図

主体的・対話的に深く学ぶ児童の育成

目指す子どもの姿

○学ぶことに興味や関心を持ち、課題の解決にあたって、見通しをもって粘り強く取り組むことができる。

○友達との交流、先生や地域の人々との対話、本や先人の考えを手がかりに、自分の考えを広げ深めようとする。

○学習で身につけた力を自ら認識し、身の回りの生活への応用や、疑問に感じたことの解決へと考えを深めようとする。

山崎北小学校の課題

（学力テストより）

・国語では漢字・ローマ字等の定着　読みとりの力

記述の問題よりも，文章を読み，適当な文を選択する・言葉を選ぶ問題に課題

・算数においては，割合。面積の出し方・角度や奇数偶数の意味を記述する問題に課題。モデルをもとに考えを記述する問題も課題

（学習・図書館アンケートより）.

・「勉強は楽しい」と答える児童　国語 42.0%

・友達と話し合うことが楽しい(78.0%)の数値の割に，友達との話し合いで考えを深めることができる(45.0%)と答える児童が少ない。

・学校図書館を良く利用すると答える児童が少ない

サブテーマ　**国語科の学習で「何がわかり、何ができるようになったのか」を実感させる指導を通して**

研究の手立て※「目指す子ども像」のような児童を育成するために，どの学年も取り入れる必要がある手立て

（1）　児童につけたい力に即して、学習のめあてや言語活動のねらいを明確にした学習計画を立てる

（2）　目的に応じた対話場面を設定し、各学年で身につけた「話し合いの力」を活用する

（3）　「何がわかり　何ができるようになったのか」を児童が実感できる評価を行う

具体的な取り組み

○目的意識を持たせた単元の学習
　第１次（導入・学習課題の設定）
　第２次（課題に向かう習得・活用）
　第３次（ゴール　つけたい力に合う言語・表現活動）
○つけたい力や言語活動のねらいを明示した学習計画の作成
○１単位時間の学習のめあてを、つけたい力や学習の課題に即したものに設定する。

具体的な取り組み

○各学年で身につけた「話し合いの力」を明示する
　（「話す」「聞く」「進める」「評価する」「メモする」など）
○話し合いのポイントを明確にする。
　※目的を明確に示す。
　・資質能力の育成
　・学習内容の深い理解
　・学習への動機付け
　※助言の工夫について指導する。

○児童が学習で身につける力を示した児童用の評価基準を設定する。
○児童の評価基準をもとに、自己評価や他者評価を行い、「わかったこと・できるようになったこと」を実感させる。
○児童の言語・表現活動を教師が評価し、児童にプラスのフィードバックを行う。

児童の学習を支える

補充学習（習熟度別少人数）
朝学（学習プリントの活用）

家庭学習の記録（保護者の連携）
家庭学習ノート活性化

学力調査の分析
学習状況調査の分析

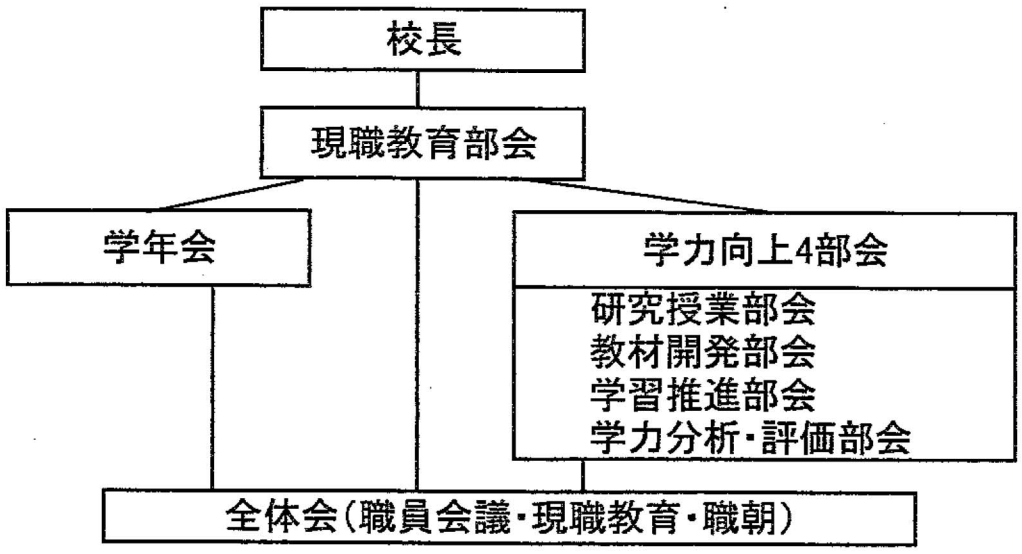
学級づくり
特別活動の充実

研究組織

現職教育部会（教頭・教務主任・現教主任・学年主任・４部会部長）

学力向上４部会（研究授業部会・教材開発部会・学習推進部会・学力分析評価部会）

Ⅵ　研究組織について



現職教育部会　教頭・教務主任・現教主任・学年主任
学力向上4部会の部長〈兼任可〉で構成

※ 研究テーマ・方針・内容について
※ 研修の計画
※ 初任者研修・師範授業の計画

学力向上4部会　各部会に各学年1名以上で構成する。

研究授業部
※ 3回の研究授業〈大研〉の計画・運営（教材研究～研究協議）
※ 学びサポートの運営
※ 学習課題/学習計画の設定の仕方について研究する。
※ 課題の解決に迫る一単位時間のめあての設定について研究する。
※ 「話し合いの力」を活かした対話場面の設定について研究する。

教材開発部会
※ 児童が主体的に学習に向かう掲示や学習環境について研究する。
※ 縦のつながりを意識した共通掲示などの作成(生徒指導的なものも含む)
※ 深い学びにつながる授業作りに必要な教材の作成・整理

学習推進部会
※ 補充学習のあり方を研究し、実施について計画する。
※ 家庭学習の取り組ませ方や内容について研究する。
※ ノート指導について研究する。

学力分析・評価部会
※ 国・県・市の学力調査をもとに、各学年の状況や課題を分析する。
※ 学習に関するアンケートを実施し、傾向と対策をまとめる。
※ 児童が学びの実感を得られるような評価について研究する。